

TAKAYOSHI

株式会社タカヨシホールディングス

2024年9月期 第3四半期決算説明資料

2024年8月5日





1.2024年9月期第3四半期 決算ハイライト

業績サマリー（第3四半期連結累計期間）

営業収益

5,854百万円

前年同期比（増減）

+9.9%(+526百万円)

業績予想進捗率

71.4%

営業利益

703百万円

前年同期比（増減）

△10.2%(△79百万円)

業績予想進捗率

70.3%

主要な経営指標（KPI）

流通総額

20,313百万円

（前年同期比+9.7%）

店舗数

186店舗

（前期末より22店舗増）

登録生産者数

30,956件

（前期末より2,341件増）

※2024年4月1日に持株会社となり、2024年9月期第3四半期より、連結決算となっております。前期比等につきましては、単体決算の数値との対比で表記しております。

流通総額、営業収益は過去最高 第2四半期に引続き順調に推移

新型コロナの5類移行による中食需要の低下に伴い、既存店の弁当・惣菜部門の販売が減少したものの、野菜・果実の強化を進め、また、積極的な出店を継続したことで、流通総額、営業収益は過去最高の実績となる。

販管費においては、第2四半期と同様に、人件費やシステム投資に伴う減価償却費の増加により、利益面で前年同期を下回る結果となった。

（単位：百万円）

	2023/9期 3Q実績	2024/9期 3Q実績	変動率	通期業績予想	進捗率
流通総額	18,513	20,313	+9.7%	28,600	71.0%
営業収益	5,328	5,854	+9.9%	8,200	71.4%
営業利益	782	703	△10.2%	1,000	70.3%
経常利益	769	698	△9.3%	980	71.2%
四半期純利益	412	349	△15.1%	490	71.4%

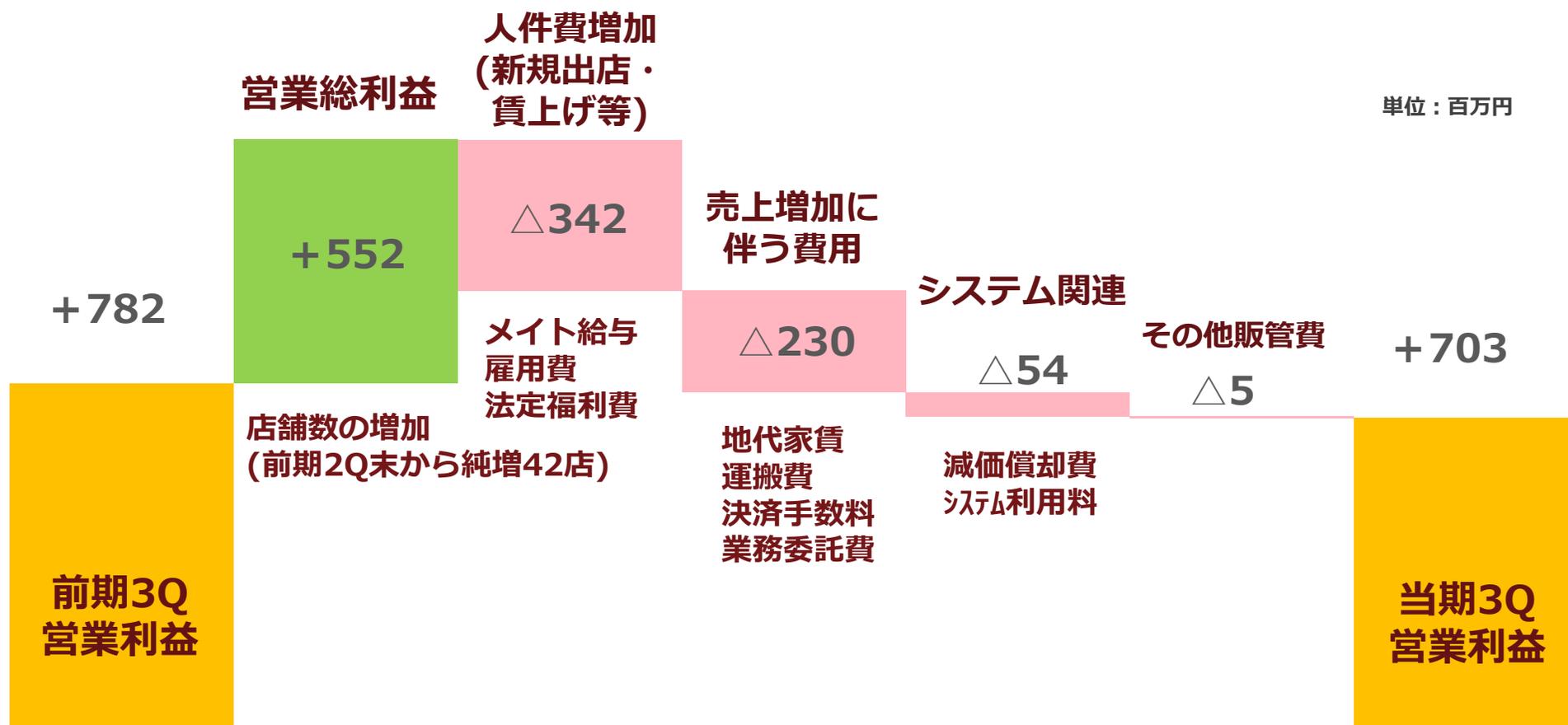
PL前期比較

(単位：百万円)

	2023/9期 3Q実績	2024/9期 3Q実績	増減	変動率	主な理由
流通総額	18,513	20,313	+1,800	+9.7%	・店舗数の増加（前期2Q末から純増40店）
営業収益	5,328	5,854	+526	+9.9%	・流通総額の伸びによる増加
売上総利益	4,920	5,470	+549	+11.2%	・流通総額の伸びによる増加
売上総利益率 (流通総額ベース)	26.6%	26.9%	+0.3pt	-	
販管費合計	4,306	4,937	+630	+14.6%	・新店稼働による増加（人件費、店舗関係費等） ・流通総額の増加による変動費（地代家賃等）の増加 ・IT投資(基幹システム)の刷新に伴う減価償却費の増加
営業利益	782	703	△79	△10.2%	・販管費の増加
営業利益率 (流通総額ベース)	4.2%	3.5%	△0.8pt	-	
経常利益	769	698	△71	△9.3%	
税引前当期純利益	729	650	△78	△10.8%	
当期純利益	412	349	△62	△15.1%	

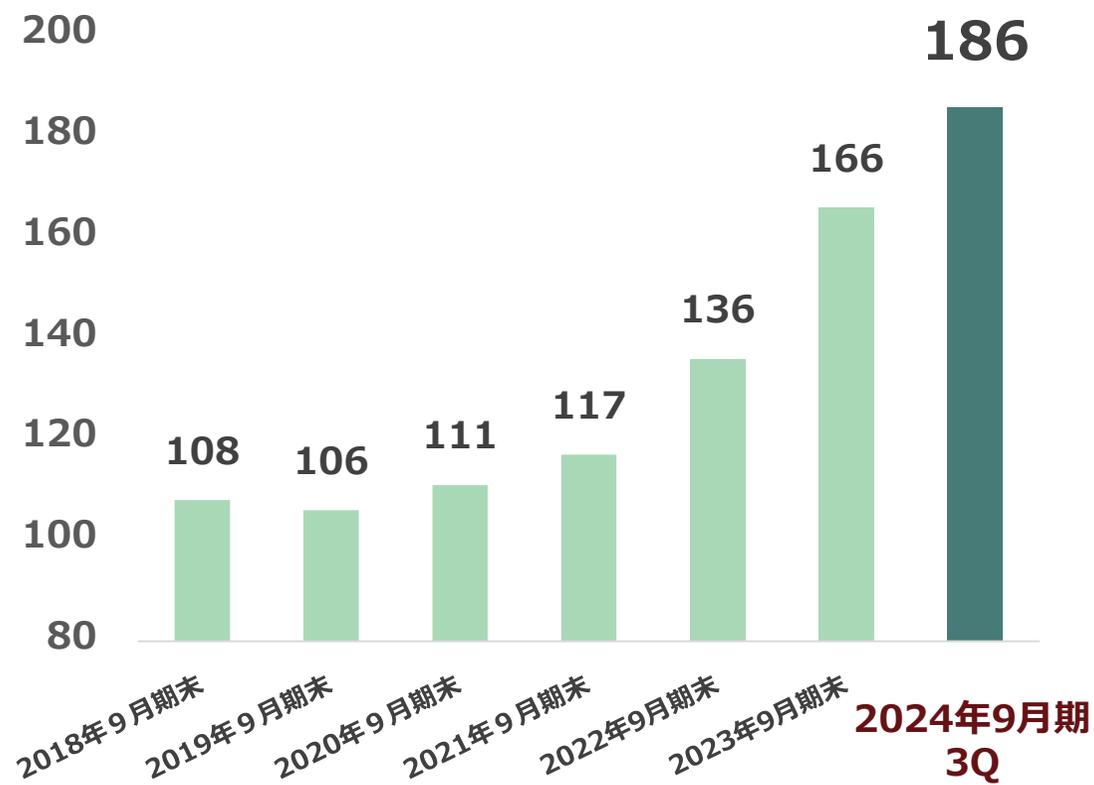
営業利益の増減要因

新規出店に伴うメイト給与、売上増加に伴う地代家賃や運搬費が大幅に増加。前期、第2四半期から42店舗増えたことで、営業総利益が大幅に増加し、販管費の増加分をおおむね吸収。



店舗数180店舗を突破 今期は既に27店舗出店し、今期目標30店に向け着実に増加

単位：店

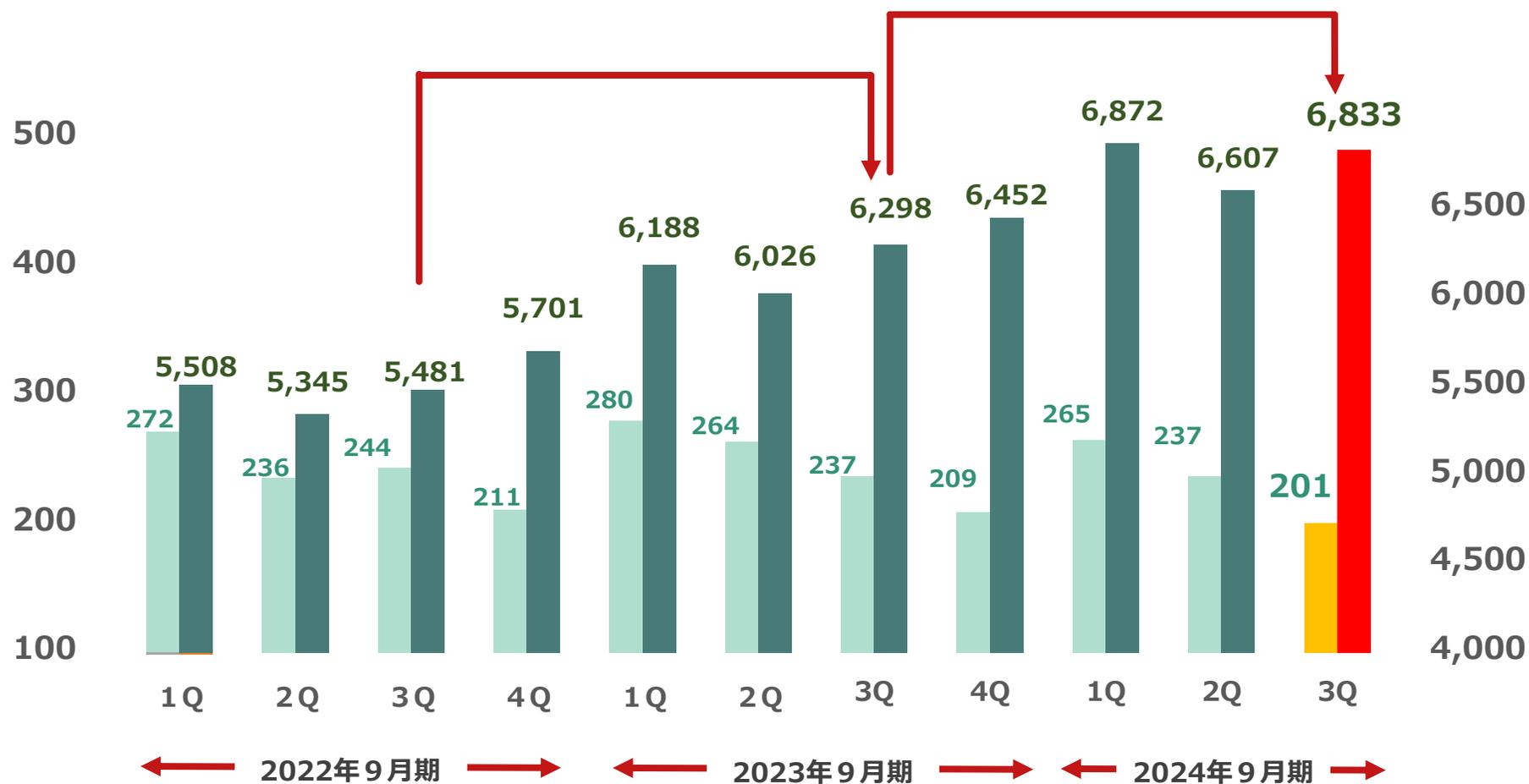


地域	当期出店数	当期閉店数	店舗数
北海道	1店舗	—	4店舗
東北地方	—	1	3店舗
関東地方	10店舗	1	108店舗
中部地方	7店舗	—	34店舗
近畿地方	4店舗	2	16店舗
中国・四国地方	2店舗	—	9店舗
九州地方	3店舗	1	12店舗
合計	27店舗	5	186店舗

四半期ごとの流通総額と営業利益の推移

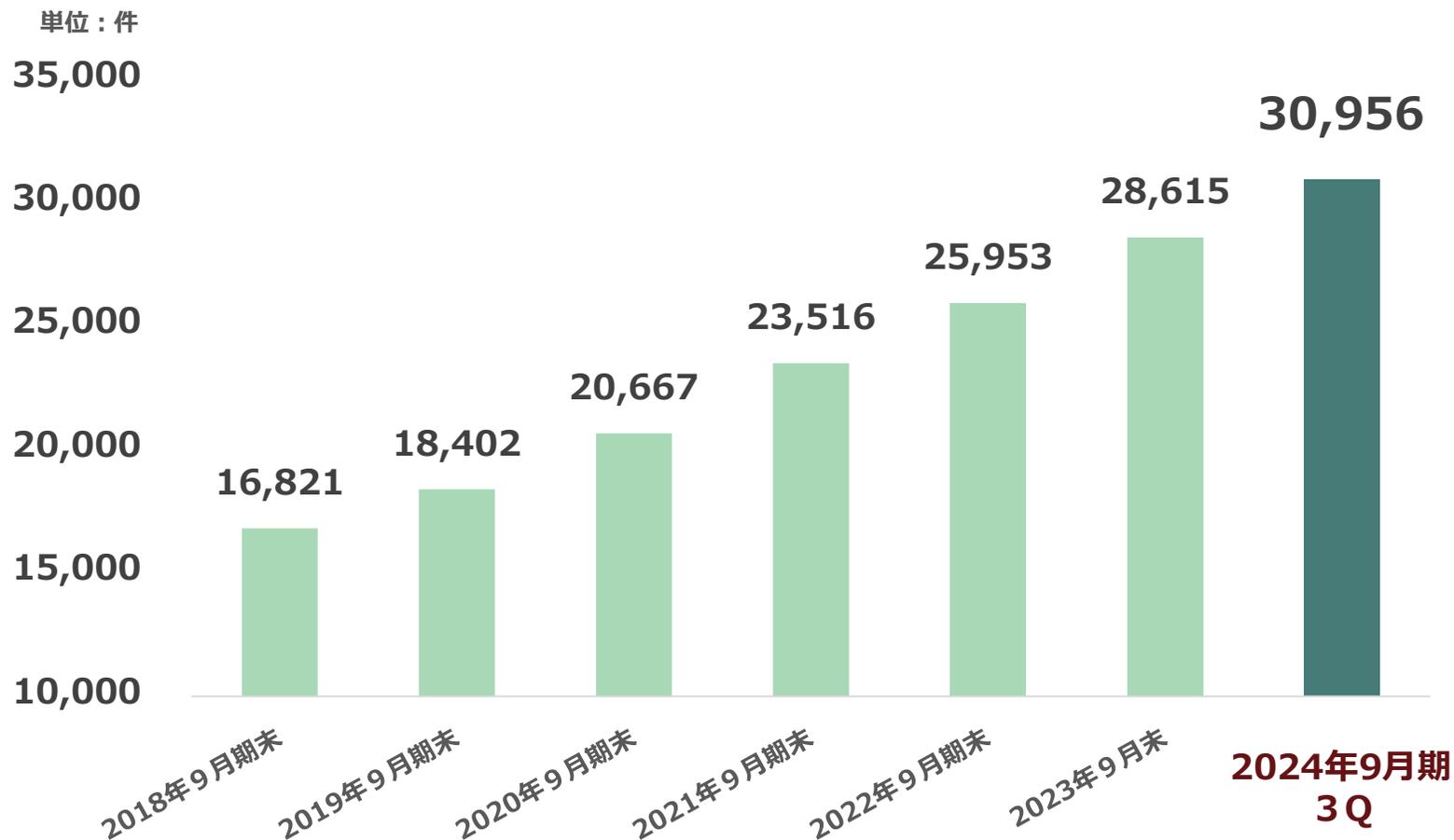
営業利益 (左グラフ)
単位：百万円

流通総額 (右グラフ)
単位：百万円



累計登録生産者数の推移

新規出店に伴う生産者開拓と並行して、
既存店舗の追加開拓も推進し、累計登録者は3万件を突破



登録生産者数：「わくわく広場直売所会」へ登録された生産者の各期末時点の件数

旬の野菜・果物や、季節に合わせた店舗イベントを開催



スイカやメロンなど
旬な果実の販売



筍やブロッコリーなど
旬な野菜の取扱い



季節に合わせたイベント



都市型大型商業施設への出店

「コレド室町3店」4月17日（水）開店

- ・ 東京メトロ半蔵門線・銀座線「三越前」駅、JR総武線快速「新日本橋」駅から直結の地下通路沿いに面する、立地の良い店舗
- ・ 生産者からの新鮮野菜が並び、また店舗周辺の人気飲食店のお弁当やパン、老舗の和菓子などの取扱い
- ・ ランチ時間のお弁当や惣菜の販売に加え、夕方以降の野菜・果実の販売も好調で、36坪と小規模ながら、日販、点単価も高く、坪効率が良い。



新たなハイブリッド型店舗への挑戦

大多喜店を「わくわく広場」×「業務スーパー」へ

「業務スーパー大多喜店」7月18日（木）開店

- ・ 房総半島の中央に位置し、四季折々の旬の野菜や果実などが集まり、また房総エリアの土産品を観光客向けに取扱う
- ・ 鮮度の高い野菜や果実、花、土産物に加え、業務スーパーが取扱う加工食品や国内・海外からの商品など約2,500～2,800アイテムが並ぶ



- 本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としています。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合があります。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますので、当社として、必ずしも達成を約束するものではありませんが、事業計画を見直した場合など、記載内容に重要な変更が生じた場合には、速やかにその内容について開示いたします。
- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料・データの無断転用はご遠慮ください。
- 事業計画及び成長可能性に関する事項のアップデートは各事業年度ごとに、本決算後12月頃迄を目途として開示を行う予定です。